

# 〈水脈の会〉山形行 に寄せて

本間 利雄

〈水脈の会〉のみなさんが山形を訪ねたい、と連絡をいただいて、有働さんと入之内さんが五月二十二日、米形された。山形で会として、研究会のようなものを開催したい、とのお話であった。それに対して、「有志の方々が自由に、山形の自然、集落、街や村を見てはどうですか、山形の山々はいいですよ」と応えた。

山形県は、四つの地域に分かれている。県都のある「村山」、上杉の米沢——「置賜（おきたま）」、山形新幹線終点・新庄の「最上」、そして日本海に面する「庄内」である。藤沢周平の名作『蟬しぐれ』のおかげで庄内（鶴岡）にはファンが多く訪ねてくれる。そのオープンセットのある松ヶ岡開墾場にも案内し、いろいろと下見の結果、庄内と月山に決まった。

みなさんの訪形の日が、あいにく別の予定と重なっていた。私の故郷——飯豊山のふもとの集落・小玉川地域の調査に、東北芸工大東北文化センターの赤坂教授（民俗学）、講師、研究員の方々（十名ほど）と一緒に現地に入る日であった。飯豊山は山形県の南にあり、月山は北である。宿の「つたや」の都合と一行の予定日が合致しなかったことをあとで知ったが、武者（英二）先生と久しぶりにお会いできることを楽しみに、月山のみもと——志津の集落にある「つたや」で七月二十三日、〈水脈の会〉のみなさんとお会いすることにした。一行の中に武者先生の姿が見えないので、おいでにならなかったのかと思って挨拶したところ、急に東大病院に入院された由を聞かされた。数年前、奥様ともどもお迎えし、私の故郷の飯豊山登山をご一緒したり、山寺・風雅の国で講演

をしていただいたことなど、過ぎし昔話を語り一夕を過ぎたかったのであったが、健康の回復を祈るばかりである。

東北は昔から、みちのおく（道の奥）と言われ、また明治以降は「白河以北一山百文」などと言われ続け、後進地域として十把ひとからげに見なされてきた。私の故郷に基督教独立学園（私立高校）がある。内村鑑三（無教会）先生の愛弟子、鈴木彌美先生が創立された。その内村鑑三先生の『東北伝道』のなかに、次のような言葉がある。

「東北は地の物において恵まれない所、産物は別な形で求めなければならない。東北の特産物は「意志」であり、靈魂でなければならぬ。国が貧しいほど、そこでは民の心を耕す必要がある」。

「奥の細道」の芭蕉は、山形のところどころで次のように詠んでいる。

「閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声」（山寺の立石寺）  
「雲の峰 いくつ崩れて 月の山」（庄内出羽三山）  
「五月雨を あつめて早し 最上川」（山形縦断の大河）

「暑き日を 海に入れたり 最上川」（酒田）  
これらの歌は、芭蕉の「みちのくに」、その行方をさぐる目である。

また、明治十（1877）年に英国女性探検家イサベラ・バードが『日本奥地紀行』で、置賜地方を峠の上から眺め、美しい米沢盆地を「ここはアジアのアルカディア（桃源郷）」と記している。

山形県民が今日になっても元気づけられる、もう一つの言葉がある。米国・ライシャワー駐日大使が山形に來られ、「山の向こうのもう一つの日本」と評した。

山の向こうにある山形は、どうなっていくのであろうか。〈水脈の会〉のみなさんは、この山形をどう見てくださったのか。

人間が人間として、すこやかに生活できるその環境を創りあげるために、大都市のものまねでなく、大都市の熟れすぎた近代化でなく——（2006年七月二十三日夕「つたや」の宿—会食の前）。（ほんま としお/建築家、山形在）



注) Cyber Map Japan Corp. より作成

- 〈山形行〉 旅程
- 7/22
    - さかた海鮮市場（昼食）
    - 酒田市内観光 山居倉庫/酒田市立資料館/本間美術館/旧本間邸/旧燈屋 など①
    - 間邸（夕食）
    - ホテルリッチ（宿泊）
    - 7/23
      - 土門拳記念館
      - 致道博物館（鶴岡）②
      - 今井繁三郎美術収蔵館
      - 松ヶ岡開墾場（昼食）
      - 田妻侯・旧遠藤家住宅
      - 「つたや」（宿泊）③
      - 7/24
        - 月山リフト口
        - ネイチャーセンター
        - 旧六〇里越街道
        - 岩根沢三山神社